



岡山大学

歯学部案内



Okayama University
Dental School

2011



目次

学部長挨拶	3
沿革	4
教育理念	5
カリキュラム	6
海外での活動	9
わたしの岡大ライフ	10
卒業後の進路	
研修医センター	12
大学院	13
サークル紹介	14
研究室紹介	16
病院紹介	23

岡山大学歯学部案 2011

新しい息吹 創世への想い



個性を伸ばし、多彩に活躍する卒業生

歯学部長

松尾 龍二

内

岡山大学歯学部は、昭和54年に創設された旧国立大学では最も新しい歯学部です。このため歯学部の教育スタッフは、旧来の固定観念に捕われず若い人の意見を積極的に取り入れた教育方法を実施し、卒業生が多彩に活躍できるように努めています。入学試験でも、一般の前期・後期入学の他に推薦入学や学士（3年次編入）入学、帰国子女の入学などを実施し、多様な学生を求めています。岡山の地に在りながらほぼ全国から学生が集まり、楽しいキャンパスライフを送っています。

皆さんは歯学部と言うと歯科医師だけを思い浮かべていませんか？もちろん最先端の医療を実施できる歯科医師を養成していますが、その活躍の場は、教育、研究、保健行政、そして海外へも広がっています。学部教育では、一般の専門教育に加え、チュートリアル（少人数による問題発見・解決型思考やコミュニケーション能力の開発）、研究室配属（研究思考や発表能力の開発）、ODAPUS（短期留学による国際感覚の開発）、国際ボランティアなどを実施しています。また5～6年生では、患者さんの診療に直接タッチする診療参加型の実習に特に力を注いでいます。まさにマンツーマンの臨床教育です。

このような独自の教育が功を奏し、岡山大学の卒業生は、国際的な医療基準（サイエンス）に立脚した技術と医療態度を身につけ、高い評価を受けています。もちろん歯科医師国家試験も全国でトップクラスの合格率を誇っています。卒業生も自己学習意欲が高く、研修医を経て大学院に進学する人も多数あります。大学院では、平成19年度より全国に先駆けて臨床専門医コースを設け、インプラントや矯正治療などの専門医を目指すことが出来るようにしました。また文部科学省より大型の予算を受け（教育GP）、コンピュータシステムを利用した合理的な臨床教育法を開発しています。

皆さんも岡山大学で勉強し、個性を伸ばし、大いに夢を語り、社会に羽ばたいて行きましょう！

君たちの熱意が明日の歯科医

食べる喜び、美しい笑顔、調和のとれた口腔の機能を追求する
歯科医師や研究者を育成します。

沿革

学部

昭和52年	4月	歯学部創設準備室設置
昭和54年	10月	岡山大学歯学部設置
昭和55年	4月	歯学部第一期生受入
昭和56年	12月	歯学部校舎および附属病院棟新営工事竣工
昭和57年	4月	歯学部専門課程の授業開始
昭和59年	4月	18講座設置完了
昭和63年	4月	大学院歯学研究科（博士課程）設置
平成13年	4月	大学院医歯学総合研究科を設置（平成15年4月 修士課程設置）
平成14年	4月	歯学部学士入学第1期生受入
平成16年	4月	国立大学法人岡山大学へ移行
平成17年	4月	大学院医歯薬学総合研究科を設置

病院

昭和55年	4月	歯学部附属病院創設準備室設置
昭和57年	4月	附属病院棟新営工事竣工、歯学部附属病院設置、診療開始
平成5年	4月	11診療科となる
平成13年	4月	特殊歯科総合治療部および地域医療支援室を設置
平成14年	2月	口腔インプラント外来および顎関節症・口腔顔面痛み外来を設置
平成14年	12月	卒後臨床研修センターを設置
平成15年	4月	審美歯科外来を設置
平成15年	10月	歯学部附属病院と医学部附属病院を統合、医学部・歯学部附属病院を設置
平成16年	4月	国立大学法人岡山大学へ移行
平成21年	4月	医学部・歯学部附属病院が岡山大学病院に改称



療をリードする



教育理念

口は、息をしたり、物を食べたり、会話をするなど人が生活していく上で必要なだけでなく、日常生活において豊かな表情を演出する大切な器官です。また、最近では、物を咬むことが記憶や学習の効果を高めるなど口の機能が脳の働きに関わることが脚光をあびています。このように大切な口の健康を管理するため、病気の治療や予防に関する研究や、口の科学研究をもとに得られた成果を全身の健康増進に発展していくのが歯科医学です。

歯学部は良き歯科医療人を育成し、歯科医学を研究、発展させることを目的とし、「国民への高度な歯科医療の提供」と共に「先端的な歯科医療の研究開発」を重視した人材育成を行っています。さらに、社会のニーズの多様化と国際化が急速に進む現在、総合的に適切な判断を行える学際的国際的な人材の育成につとめています。

- 1) 総合大学の特性を生かし、幅広い教養および総合的判断能力を身に付けた豊かな人間性の育成
- 2) 社会の要請ならびに科学の進歩に主体的に、独創的に対応し、高度な医療福祉の担い手となりうる歯科医師の育成
- 3) 歯科医学を基盤に多彩な場で活躍ができる知識と技能、さらに科学者としての学際性と国際性の育成
- 4) 先端的な歯科医療の研究開発を担うための問題発見、問題解決の能力を身に付け、自ら生涯を通じて学ぶ精神の育成

目標

岡山大学における教育の目的は、専門的能力の育成と人格形成です。これは卒業後に社会に出て活躍するための基盤となるものです。すなわち多様化、複雑化、情報化時代において、社会に貢献できる能力を身に付けなければなりません。このためには高度な専門的知識だけでなく、論理的思考力、独創的思考力、そして高い倫理観と教養を身に付ける必要があります。

歯学部では、高度な医療福祉の担い手となりうる歯科医師、先端的な歯科医療の研究開発を担う研究者など、歯科医学を基盤に多彩な場で活躍できる人材を育成しています。教育課程は6年一貫教育となっており、歯科医療に必要な臨床科目、その礎となる基礎科目など一般的な歯学教育を中心に、歯科医師に必要な知識と技術の習得を目指します。

理想の 入学者像

歯科医学は総合的な学問で、岡山大学歯学部では、自然生命科学から工学的な分野、さらには人文・社会科学的な分野まで幅広い領域の教育・研究が行われています。必ずしも理科系の学生のみではなく、さまざまな学生が活躍できる学部です。

以上のような観点から、文系、理系をとわず、次のような学生を求めています。

- ・歯学教育を受けるに十分な基礎学力がある人
- ・他人を思いやる優しさ高い倫理観を持っている人
- ・何事にも意欲的に取り組むことができる人
- ・生命、健康科学に強い好奇心と探究心を持っている人
- ・歯科医師として国民の健康、福祉及び地域と国際医療に貢献したいという明瞭な目的意識を持っている人

カリキュラム

世界に通じる全人的医療人を育成します。



1 年次

早期見学実習

歯科医療演習

細胞生物学

チュートリアル
(問題発見解決型学習法)

テーマに沿った話題について、グループごとに討論、発表することで、自己学習能力を習得します。

教養教育科目

情報処理入門

英語(歯学部)

2 年次

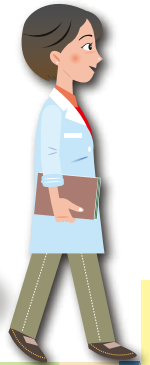


早期見学実習

新入生が医療施設の見学や体験実習、患者さんのエスコート実習を行い、医療人としての自覚を持ちます。

専門歯学基礎科目
講義・実習

3 年次



医療法学・
社会福祉学

ODAPUS

海外の大学の聴講生として短期留学し、広い視野を持つことを身につけます。

チュートリアル

対人コミュニケーション実習で得た知識やスキルを活用して各症例に沿った問題を発見し、グループ討論を行います。

研究室配属

各研究分野において学生が自ら実験研究に参画し、科学的視点を身につけます。

研究室配属・
歯学国際交流演習 (ODAPUS)

進級
判定

進級
判定

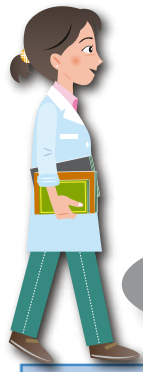
第103回(平成22年)
 歯科医師国家試験
 合格率95.1%
 全国第1位



6年次

5年次

4年次



医療面接実習

専門歯学臨床予備実習



マネキンを患者と想定して様々な歯科臨床技術を習得します。

臨床医学講義

岡山大学医学部から講師を招き、臨床医学について学びます。

チュートリアル

臨床事実に基づく歯科治療についてグループ討論・発表を行い、患者さんにとって最良の治療計画を立てる基礎を熟考する態度を身につけます。



専門歯学臨床予備実習



専門歯学臨床講義

実践歯科医療学

診療参加型臨床実習



診療参加型臨床実習



実際の臨床の現場にて、教員の指導のもとで臨床技能と態度を養います。

臨床実習を終え、これまでの歯学教育内容を整理し、歯科医師国家試験のための準備を行います。

総合歯学演習

卒業後の進路

進級 全国
 判定 共用試験

卒業 国家
 判定 試験

※詳細および学士入学生についてはホームページを参照してください。 <http://www.dent.okayama-u.ac.jp/gakubu/index.html>

カリキュラム

歯学部学士教育課程の構築と独自の専門教育

■ 専門教育（＝必須科目）

- ▶モデル・コア・カリキュラム60～70%
 - ▶独自のカリキュラム 30～40%
- (多彩に活躍できる人材を送り出す)



図1 早期見学実習

■ 独自のカリキュラム

- 1 早期見学実習 1年次 (図1)
- 2 チュートリアル 1・3・5年次 (図2・3)
- 3 研究室配属 または
短期海外留学 (ODAPUS) 3年次
- 4 診療参加型実習 5・6年次 (図4)



図2 少人数方式



図3 チュートリアル発表会



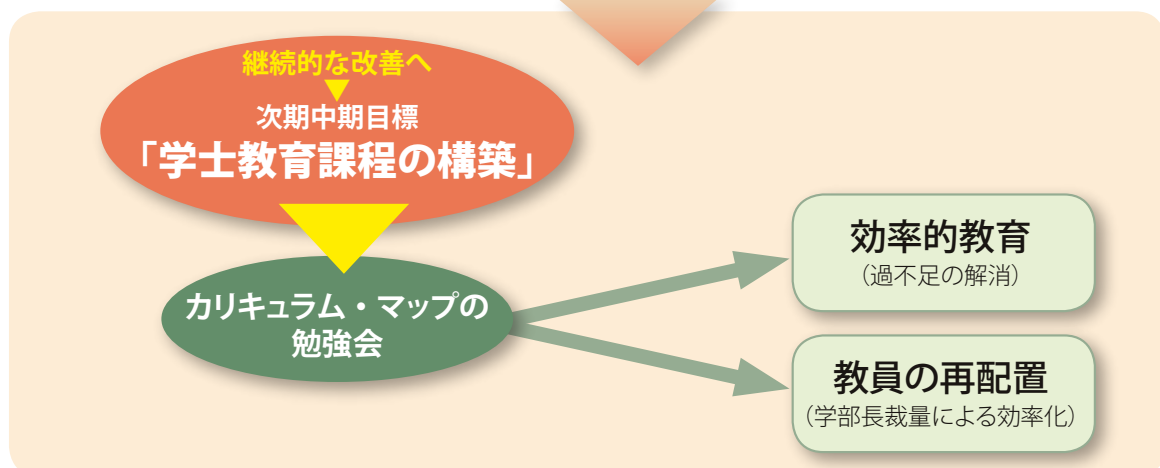
図4 マンツーマン方式

最近の

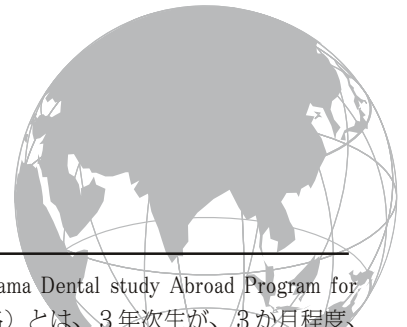
- 利点：高い国家試験合格率、高い大学院進学率、多彩な社会進出
- 欠点：マンパワー不足、予算削減による制度的疲労

利点の強化

欠点の改善



海外での活動



ODAPUS

提携大学 (H22 年度予定)
 カリフォルニア大学 (アメリカ)、サ
 スカチュワン大学 (カナダ)、北京大
 学 (中国)、中国医科大学 (中国)、
 大連医科大学 (中国)

ODAPUSプログラム (Okayama Dental study Abroad Program for Undergraduate Studentsの略) とは、3年次生が、3か月程度、海外の大学に聴講生として参加できる短期留学制度です。岡山大学に特有の制度で、派遣大学の世話教授等から受講証明書を取得することで単位として認定される選択科目です。現在、カリフォルニア大学 (アメリカ) や大連医科大学 (中国) など世界各国にあるいくつかの大学への短期留学が可能です。(H22年度予定)



私は今回 ODAPUS を利用して、カナダのサスカチュワン大学歯学部に行ってきました。期間中は、実際に歯学部1年生と一緒に授業を受けたり、いろんなイベントに参加したりして、カナダでのキャンパスライフを満喫してきました。実習では模型の歯を削ったりもできて、とても楽しかったです。クラスメイトやホストファミリーをはじめ本当に素敵な人たちがばかりで、彼らと過ごした時間は、私にとって一生忘れられない宝物になりました。後輩の皆さんにも、是非素敵な経験をしたいと思っています。

小松 奈央 5年次生 / ノートルダム清心高等学校卒

海外ボランティア

卒業生や大学スタッフは様々な医療ボランティア活動に携わっています。このような活動は講義等を通して紹介されます。実際にベトナムでの歯科医療や口唇口蓋整治療支援、また、モンゴルでの歯科医療ボランティアなどに学生が参加しています。



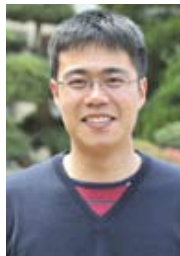
昭和62年卒業 **中條 新次郎**
 中條歯科医院 院長



ベトナムの南部ホーチミン市に於いて、ストリートチルドレンや障害児を対象に年に1~2回の無料歯科診療を行っています。「何か自分にも出来ることはないか」そんな思いで8年あまり、今では歯学部の学生の多くが国際貢献を実践すべく参加してくれています。これからは対象をアジア各地に広げていきたいと思っています。

大畑 正人 3年次生 / 京都府立朱雀高等学校卒

ベトナムにおける歯科医療の実態をこの目で確かめたく、参加しました。バイタリティーあふれる多くの方と出会うことができ、また無償で歯科治療を行う意義について考えさせられました。



田枝 亜由美 5年次生 / 岡山県立新見高等学校卒

私は『モンゴル歯科探検隊』に参加して、孤児院での歯科保健活動やモンゴルの歯科学生との交流会など様々なことを体験しました。青空の下での遊牧民への歯科ボランティア活動を終えたときに感じた達成感、充実感は日本にいたるだけでは経験できません。モンゴルは本当に自分で学んで成長できた場所でした!



わたしの岡大ライフ

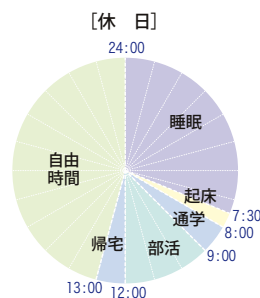
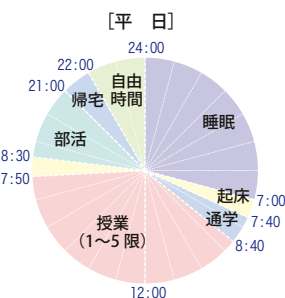
▶ 空いた時間を有効活用……………歯学部1年次生（岡山県出身）A君の場合

私は倉敷の自宅から自転車と電車で約1時間かけて通学しています。

一人暮らしとは違って、家事などに時間をとられることもなく、その分勉強や部活動に力を注いでいます。部活は本学の交響楽団に所属しており、週に4回練習に参加しています。私はアルバイトをしていませんが、同級生の多くは家庭教師や飲食店で働いています。

1年生の間は授業のコマ数が少なく、専門科目もあまりないので、空いた時間にはバイトや部活などをして時間を有効に活用することをオススメします。

■収入の部	
奨学金	¥50,000
■支出の部	
家賃	¥0
交通費	¥7,000
その他	¥43,000



▶ 快適★新幹線通学……………歯学部2年次生（兵庫県出身）Bさんの場合

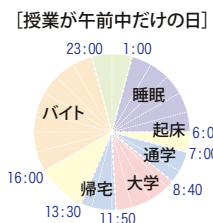
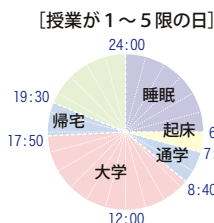
私は神戸の自宅から、新幹線を使って友達と一緒に岡山まで通学しています。

週3日部活動をし、休日にはカフェでバイトしたり、大学や地元の友達と遊んだり、とても充実した大学生活を送っています。

飲み会があるときなどは一人暮らしの友達の家に泊まらせてもらったり、テスト前は皆で泊まり込みで勉強することも。

新幹線は本数も多く短時間で神戸⇄岡山を行き来できるので、空いた時間を、勉強にスポーツに遊びに全力で楽しんでいます。

■収入の部	
バイト代	¥50,000
■支出の部	
家賃	¥0
定期代	¥80,950
娯楽費	¥50,000



通学時間／1時間半（うち新幹線30分）

▶ 専門科目開始……………歯学部3年次生（兵庫県出身）C君の場合

私は津島キャンパスと鹿田キャンパスの中間辺りに下宿しています。

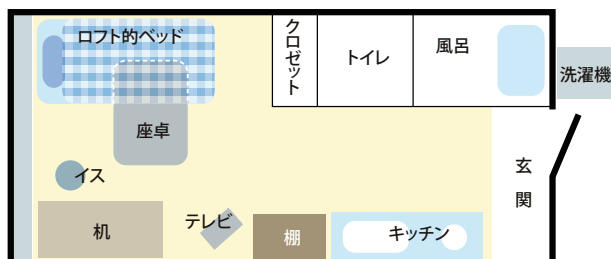
アルバイトはせず、部活（本学・演劇部）と勉強の2本柱で過ごしています。本学の部活は忙しいですが、その分やりがいもあり、自分とは全く別の学部で学ぶ人たちと接することができるのも大きな魅力です。

勉強も解剖学など専門科目になり、少しずつ歯科医に近づいていくことを実感します。専門的で高度になっていく勉強と趣味に、少ない時間を有効に使い、大変充実した大学生活を送っています。

■収入の部	
奨学金	¥50,000
仕送り	¥40,000
■支出の部	
家賃	¥39,000
通信費	¥4,000
生活費	¥40,000
その他	¥7,000



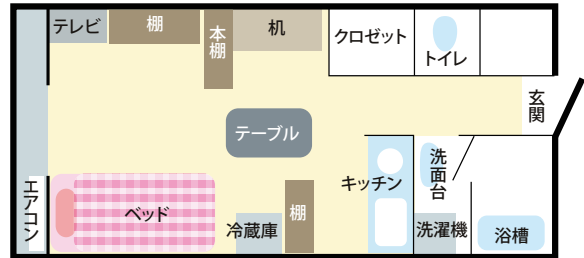
通学時間／10～15分（自転車）



勉強と趣味の両立………歯学部4年次生（広島県出身）Dさんの場合

私は学士入学なので、3年生では2年生の授業も受けなければならない、大変でしたが、4年生では少し余裕を持った生活を送っています。
週に1度、体力作りと趣味を兼ねてバレエを習っています。まだ始めて2年ですが、良い気分転換となり、生活に張りがでて、とても楽しいです。地元の方とも仲良くなれるので、より地域になじめると思います。家は大学から自転車で5分くらいです。近くにスーパーやコンビニがあり、さらにバス停も近いのでとても便利です。
臨床をふまえた勉強や実習と趣味を両立させて、有意義な毎日を送っています。

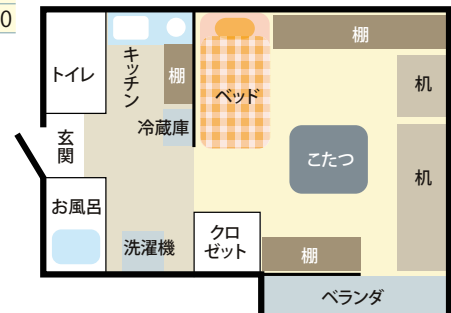
■収入の部	
奨学金	¥100,000
■支出の部	
家賃	¥51,000
光熱費	¥10,000
通信費	¥4,000
その他	¥35,000



臨床実習開始………歯学部5年次生（徳島県出身）Eさんの場合

5回生の秋からは臨床実習が始まります。
朝8時過ぎから夕方6時～8時までは学校に居ます。平日にアルバイトは難しくバイトをしていないか土日のみの人がほとんどです。
私は休日をサークル活動に費やしています。OSAL(Okayama Save A Life), OCSIA(Okayama Clinical Skill Improving Association) という医療系の学生が集まって勉強するサークルに所属しており、他大学とも合同で勉強会を開催したり、教育熱心な先生に講演に来ていただいたりしています。岡山は他県からのアクセスが良く、他大学と交流したり勉強会に参加したりするのもとても便利です。

■収入の部	
奨学金	¥100,000
■支出の部	
家賃	¥48,000
光熱費	¥15,000
通信費	¥10,000
その他	¥27,000



通学時間／5分（自転車）

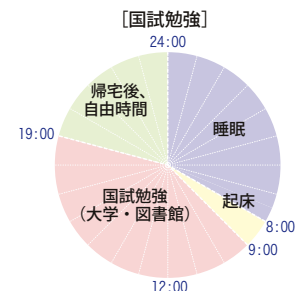
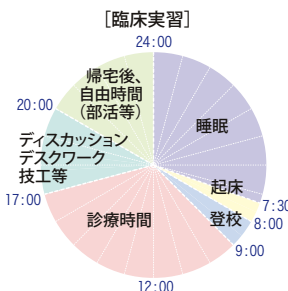
いよいよ学生生活最終年………歯学部6年次生（京都府出身）F君の場合

臨床実習（～9月）と卒業試験や歯科医師国家試験への受験勉強（10月～2月）中心の生活となります。臨床参加型の実習を行う中で歯科医療の重要性を感じ、仲間と助け合いながら学び、将来への夢と希望を膨らませています。
時間を見つけては部活動に参加したり、街に飲みに行き出したりと、うまく時間を使えばかなり充実した生活が送れます。
歯科だけでなくたくさんのことを学べる岡山大学歯学部に入學して本当によかったなと思っています。たくさんのひとに感謝です。

■収入の部	
仕送り	¥130,000
バイト代	¥15,000
■支出の部	
家賃	¥60,000
光熱費	¥5,000
通信費	¥10,000
飲食費	¥60,000
その他	¥10,000



通学時間／5分（自転車）



卒業後の進路



研修医
センター

充実した歯科医師卒後臨床研修の提供

卒後研修センター

歯科研修部門

平成 18 年より歯科医師法が改正され、新たに歯科医師免許を取得した歯科医師は 1 年以上の臨床研修を受けることが義務化されました。これに対応して、岡山大学病院では、1 年間の充実した歯科医師臨床研修を行うことが可能なプログラムを提供しています。

本院での研修の目標は、医療人である歯科医師にとって必要な態度、知識および技能を習得し、生涯研修の第一歩とすることです。この目標を達成できるように、机やロッカー、パソコンを設置した研修歯科医室など充実した研修ができる環境も提供するとともに、歯科臨床のみならず、セミナー、カンファレンスさらには救急救命講習等を組み込んだ魅力的なカリキュラムとしています。また、研修歯科医が日々の診療を振り返ることにより多くの気づきが得られ、歯科医師としてのプロフェッショナリズムを学ぶ手助けになるように、パソコンを使った独自の研修教育システムも活用しています。

このような本院での卒後臨床研修は、社会から期待される歯科医師となるための礎として研修歯科医各自の将来に向けて有効に役立ててもらえるものと確信しています。



卒後研修センター歯科研修部門長

鳥井 康弘 教授

大阪府立高津高等学校 昭和 50 年卒業



OB・OGは今...

美甘 真 卒後研修センター 研修歯科医師
(岡山県立岡山一宮高等学校 平成 15 年度卒業)

歯科医師としての礎を築く

研修医一年目は、歯科医師として必要となる知識・技術の習得、優れた医療人への第一歩として重要な時期です。歯科医師となってまだ駆け出しのこの時期、歯科医師としての責任と、まだまだ技術・知識不足を感じてたくさんの課題が見つかります。また、口腔一単位だけを診ていくだけでなく、全身疾患との関わりや患者の生活に即した治療を提供していかなければなりません。

そういった中で、岡山大学卒後研修センターでは、一般歯科はもちろん幅広い専門分野の歯科治療を行っており、大学病院ならではの先端医療や難症例に対する幅広い知識や考え方を吸収できる機会に恵まれています。この恵まれた環境で有意義な一年間を過ごすと共に、たくさんの仲間たちと切磋琢磨し、吸収したことを今後の歯科医師人生の大きな財産にしていきたいと思っています。



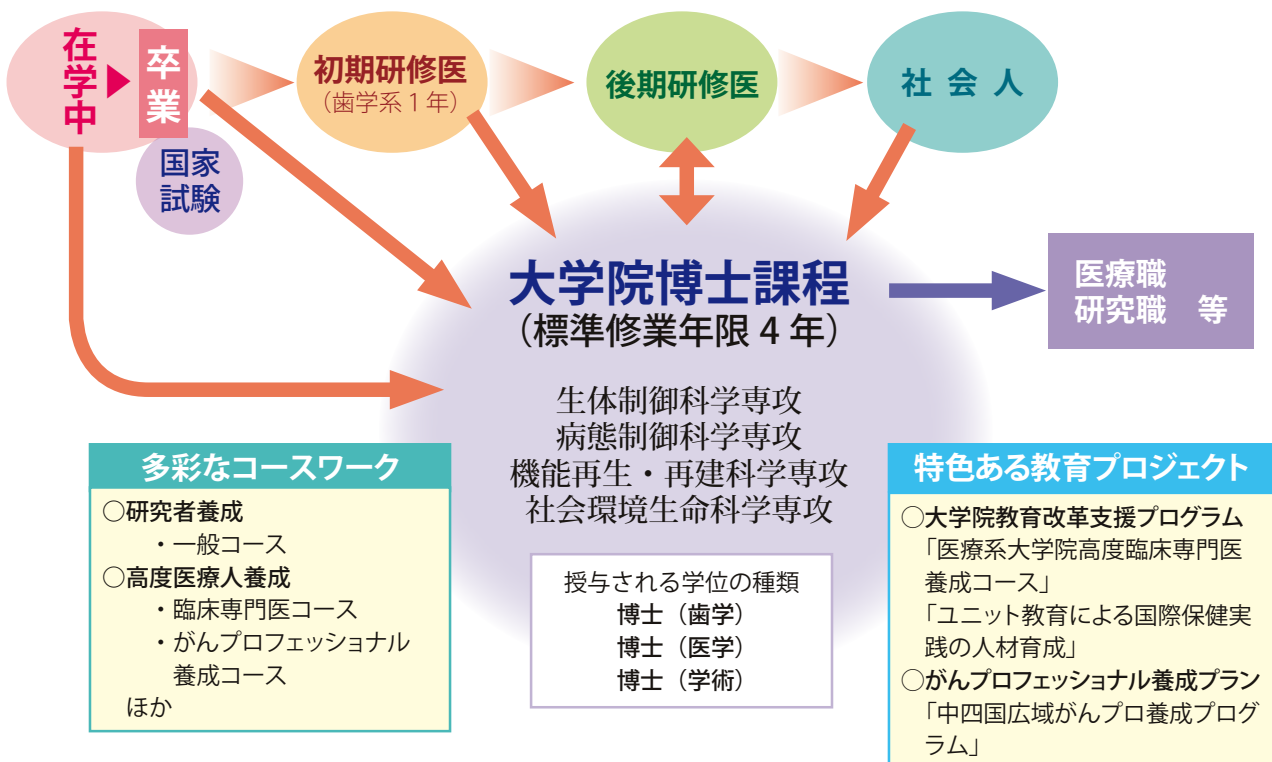
大学院

医・歯・薬3学部が連携して次世代のヘルスサイエンスを開拓する

大学院医歯薬学総合研究科

大学院では、海外からの留学生、あらゆる学部の卒業生、社会人として活躍中の人々が、今までの歯科医学の枠を超えた斬新な視点から日夜研究を進め、ヘルスサイエンスの明日を導く旗手として世界中の注目を浴びています。

多様化する社会の要請に応える工夫された課程



※学部・大学院連携制度

科目等履修制度：学部在学中から大学院の科目を履修できる制度

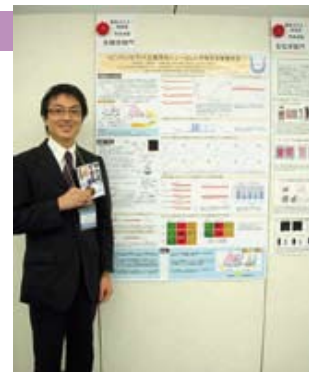
DDS/PhDコース：研究指向の学部生が4年次または5年次を終了時点で学部を退学し、大学院に入学。大学院修了後に学部にも再入学する制度。

OB・OGは今...

植田 紘貴 平成21年3月大学院博士課程修了 鹿児島大学 助教 歯科矯正学分野
(岡山県立玉島高等学校)

第50回歯科基礎医学会生理学部門優秀ポスター発表賞

大学院では生命活動に関する基礎研究から患者さんの治療に直結する臨床研究まで幅広く行われています。また、医歯薬学総合研究科の利点を活かして他の研究分野との学際的研究も活発に行われています。歯科医学に関係の深い「食べたり、飲んだりすること」は、栄養の摂取という意味で生命活動の維持にとって非常に重要な役割を果たしています。日常生活では当たり前のことのように感じることも多いかもしれませんが、そのメカニズムには未解明の部分が多くあります。日常の当たり前の中に、新鮮な発見が存在しているかもしれない——そう考えた時、研究活動が自分にとって非常に身近な存在に感じられました。



サークル紹介

サッカー部

私達歯学部サッカー部はプレーヤー 17名、マネージャー 9名で活動しています。練習は火、木、土曜日に行い、日曜日には時々試合も行っています。大学からサッカーを始めた人もいますのでそんな人もうまくなれるようがんばっています。そして、デンタルではここ3年で2回入賞しています。

サッカーだけでなく日々みんなで遊んでいるのでぜひ遊びに来てください。



軽音楽部

岡山大学鹿田軽音楽部です。ボーカル、ギター、ベース、ドラムなどに分かれ、バンドを組み好きな音楽をやっています。ライブは施設を借り切ったり、ライブハウスでやったりしています。活動の幅は各バンド単位で決めるので、自由な時間も多く、学生生活をより有意義なものにできます。経験者として入部する人ももちろんいますが、多くは大学からの初心者なので心配はいりません。また、音楽以外にもスポーツをしたり、旅行に行ったりと仲のいい部活です。楽器は一生の趣味になると思います。音楽が好き、楽器に興味がある、という人は気軽に遊びに来てください!!



弓道部

岡山大学歯学部弓道部です。楽しく弓を引いていたら良い成績がついてきたというような活動をしており、実際に団体戦、個人戦ともに上位入賞を果たしています。特に夏に行われる全日本歯学生総合体育大会に一番力を注いでいます。道場に来て頂ければいつでも大歓迎ですので是非遊びに来てください!!



バドミントン部

私たちバドミントン部は夏に開催されるデンタルと呼ばれる大会に向け、部員みんなで頑張っています。大学から始めた人が多いですが、先輩の優しい指導のおかげで、みんなメキメキと上達していきます。また、医学部や他大学との交流戦もあり、幅広く友達を作ることができます。

その他、春にはお花見やバーベキュー、秋には学園祭、冬にはスキーやボートなどといったイベントもあり、高校とは違った多くのことを経験できます。是非一緒に楽しい思い出作りをしましょう。



歯学部硬式庭球部

歯学部硬式庭球部です。歯学部の中では最も部員が多い部でみんな楽しく和気あいあいと、そして熱心に活動しています。主な試合はオールデンタルと呼ばれる大会が夏にあり、その1週間だけは日常から離れ、感動の涙もありつつ、暑くそしてみんなで熱く、青春します。また練習だけでなく春は花見、夏は海、キャンプ、冬はスキースノボなどたくさんの企画が目白押しですぜひ一度遊びに来て下さい。たくさんの先輩がみんなをまっています!!



準硬式野球部

私たち準硬式野球部は、少ない人数ながらも毎年8月に開催されるオールデンタルという大会では、好成績を残しています。しかし、部員の多くは野球初心者なので、みんなで練習メニューを考え、少ない人数で濃い練習ができるように工夫しながら強いチームになるように頑張っています。また、部員同士がとて仲が良いので、きつい練習も乗り越えて行けます。普段からみんな和気あいあいとして遊びに行ったりします。

こんな野球部に興味のある人は、野球初心者、女性、誰でも気軽に遊びに来て下さいね♪



D. M. C

D. M. Cは鹿田キャンパスに拠点をおいたダンスサークルです☆☆☆平成20年に出来た新しいサークルですが鹿田祭のステージで踊ったり新入生歓迎のクラブイベントを主催したり…と活動の幅を広げています。部員は約20名で歯学部と医学部が約半数ずつなので友達の輪が広がってとっても楽しいです。ダンスをしたことがない人も音楽が好きならとにかく遊びに来て下さい!!せっかくの大学生活、好きなことや興味のあることにチャレンジして思いっきり楽しみましょう♪



剣道部

約30名(医・歯学部合同)が鹿田キャンパス内道場に稽古中!!男女比1:1。剣道歴有無1:1。比率からわかるように男臭く暑苦しい「これぞ武道」という感じではない。しかし、ここ数年輝かしい成績を収めている。また、遠征先では「自由行動!!」と言われてもいつの間にか団体行動になってしまう仲が良い。こんな素敵な剣道部に誘われた君は幸せ者だ。さあ!!まずはHPをチェックしてご覧!!自慢の戦績を見てくれたかい?次は愉快な先輩達のプロフィールだ!!…ほ～ら。道場に足を運びたくなってきたらう!!



バスケットボール部

こんにちは!歯学部バスケットボール部です! 私たちは水・木・土の週3回、19時半～22時に練習しています!大学から始めた人も多く、初心者でも活躍できるサークルです!男子・女子部一緒に練習しており仲が良く、一方で他サークルとの繋がりも多いので友達もたくさん増えます!

夏は歯学部だけのDENTALという大きな大会があるほか、お花見、バーベキュー、新・忘年会、スノーボードなどのイベントもあり、大学生活を十分堪能できます!

練習は汗水流し一生懸命、しかし遊ぶときは遊ぶ。そんな歯バスをよろしくお願いします!



- ◆水泳部
- ◆卓球部
- ◆ボウリング部
- ◆ピアノサークル SPF

活躍する先輩たち

岡山大学歯学部卒業生は、
さまざまな分野で活躍しています

平成8年卒業 **恒石 美登里**
日本歯科総合研究機構 研究員



日本歯科医師会の内部に、研究機関として組織された部署で仕事をしています。2007年に発足したばかりで、人数も限られてはいますが、歯科を含めた日本の医療制度に対応すべく、情報収集やデータの分析を中心として活動し始めました。国民の健康な生活を確保できる、歯科医療制度を確立できるよう努力していきます。

昭和63年卒業 **新谷 悟**
昭和大学歯学部 顎口腔疾患制御外科学教室 教授



「よりよく」をモットーに、自分の人生をプロデュースしてきました。日本の歯科界は、今、革命の時を迎えようとしています。信念を貫き、夢をもって一度しかない自分自身の人生を、楽しんでいます。臨床に疑問を發した研究のすばらしさとともに、新しい治療を行うことの楽しさを思う存分世界で味わっています。

昭和63年卒業 **中村 真理子**
吉備国際大学短期大学部
保健科 デンタルビューティ専攻 教授



歯科衛生士の業務といえば歯蝕ならびに歯周病の予防というイメージが強いと思いますが、矯正臨床においても歯科衛生士は大きな役割を果たしています。特に機能療法(MFT)は歯科衛生士が本来中心となって行うべきものです。現在もMFTの教育は行われておりますがその教育の一層の充実を図れたらなと考えています。

昭和62年卒業 **岸本 整子**
トレンスデンタルクリニック院長
(オーストラリア、アデレード市開業)



国際化といわれている今、他の国で仕事をされている日本人が増えています。私もその一人で、87年岡大歯学部卒業後、オーストラリアのアデレード大学院にすすみ、現在アデレード市内で開業しています。いいところは、オーストラリアは移民の国ですので、わざわざ旅行に行かなくても世界各国の人と知り合う機会があるということでしょうか。

平成2年卒業 **大山 秀樹**
兵庫医科大学 医学部
病理学講座(機能病理部門) 准教授



私は、岡山大学歯学部を卒業後、歯周病の研究および治療を行う講座に在籍していました。その後、医学部に移り、現在は専ら免疫学および病理学の研究および教育を行っています。全身の病気の成り立ちを解明するに際して、「歯科」と「医科」の架け橋として口腔疾患を専門とする者の立場から提言することに努めています。

昭和63年卒業 **高橋 慶壮**
奥羽大学歯学部 歯科保存学講座
歯周病学分野 教授



国民病とも言われる歯周病の病態研究をライフワークにしています。大学では、教育、臨床(歯科医療)および研究(歯科医学)を行っています。最近、多様性の大きい歯周病の進行を「カオスの理論」から説明した論文を発表しました。一方、臨床家向けの書籍も多数執筆しています。歯科界の人材育成と社会貢献を目指しています。

平成元年卒業 **船橋 誠**
北海道大学大学院歯学研究科
口腔機能学講座 口腔生理学教室 教授



“食べることと脳の働き”について興味があり、脳科学および神経生理学の見地から研究を行っています。また、科学的根拠に基づいて思考できる歯科医師・歯科医学者を育成すべく、学部学生および大学院生の教育を担当しています。

平成8年卒業 **大平 泰資**
Research Assistant Professor
Department of Periodontology and Oral Biology
Boston University Goldman School of
Dental Medicine



岡山大学歯学部で博士課程修了後、ボストンでの研究生活も8年目に突入しました。私たちの研究室では、歯周病を中心とした炎症部位における生体の防御作用を明らかにしていく事を目的としています。現在、いくつかの新しい治療薬の候補に着目し、日々夢を語り合っています。様々な研究分野の融合が、我々歯科医師の有り様を変える日も近いと感じています。

学生たちを見守る暖かい手

快適な学生生活を
力強くバックアップします。

教務学生係

心と身体の健康管理を
サポートします。

保健管理センター



研究室 紹介



口腔形態学



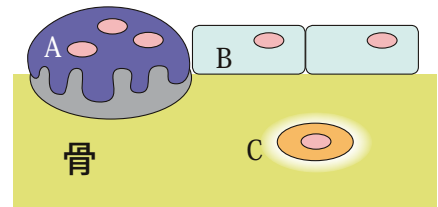
山本 敏男 教授

新潟県立新潟田高等学校
昭和 44 年卒業

骨や歯をテーマにそれらの 形成機構や吸収機構を研究

当研究分野は平成13年の改組の結果、口腔形態学分野という名称に変更しました。それ以前は口腔解剖学第一講座でした。歯学部での教育については、旧名称が示すように解剖学の講義・実習を担当しています。具体的には骨や筋など人体の運動に関連する器官ならびに内臓(消化器、呼吸器など)の肉眼解剖学、また人体を構成する細胞組織、器官の構造や機能を顕微鏡レベルで学ぶ顕微解剖学(ミクロの解剖学)です。歯や歯周については、それらの発生とミクロの構造についての講義・実習を担当しています。研究については、大きく分けて次のようなテーマで行っています。1) 骨の形成、吸収機構を形態学、細胞生物学的手法を用いて調べる。2) 骨に加えた機械的な力が骨形成や骨の細

胞に与える影響を細胞生物学的に調べる。3) 骨の再生に向けて、骨形成を促す遺伝子を細胞・組織に導入する方法を用いて調べる。4) 歯のエナメル質を形成する際の細胞間の接着装置の役割、分子構成を調べる。これらの研究を行うにあたっては、光顕、電顕を始め、免疫組織化学や分子生物学的方法を用いています。



骨の模式図:骨には骨を形成する系統の細胞(B、C)と骨を吸収する細胞(A)の3種類があり、相互に協調し合って骨を維持している。

口腔機能解剖学



杉本 朋貞 教授

大阪府立住吉高等学校
昭和 45 年卒業

解剖学の目的は 人体の機能を理解することだ

口腔はものを噛み砕いたり、飲み込んだり、呼吸をしたり、声を出したりするためにいろいろな骨や筋肉などが組み合わさっています。また口腔には、一本一本の歯にいたるまで血管や神経がくまなくはりめぐらされていて、酸素や栄養を運び、味覚や運動をコントロールしています。歯科医師や歯学の研究者を志す人にとって、口腔をかたちづくる歯、骨格、筋肉、血管、神経の形や働きに関する知識はたいへん重要なものです。口腔機能解剖学分野は口腔や、それを支える全身の構造を学ぶための授業を担当しています。講義は2年生の秋からはじまり、3年生の冬には実際に人体の構造を観察する実習があります。

研究面では、口腔の感覚がどのようにして脳に伝

えられるかを調べるための実験をしています。口腔や顔はさまざまな痛みのおこるところです。三叉神経痛など原因がよくわからない痛みや、歯のかみ合わせが悪いためにおこる顎関節症などは歯科医師が日常に出会う症状です。口腔の感覚を伝える神経や脳のはたらきの不調がどのようにして起こるのかを研究しています。





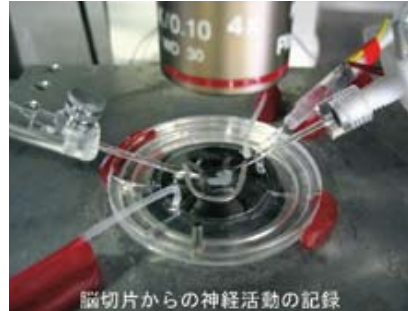
松尾 龍二 教授

ラ・サール高等学校
昭和46年卒業

脳のメカニズムを探究し、 巧妙な口の働きを解き明かす

当分野は、歯学部での生理学の講義と実習を担当しています。生理学は、生体の機能を定量的に解析して、そのメカニズムを探究する学問です。個々の細胞から器官、個体、ひいては社会的な行動パターンも学問の対象にしています。とくに歯学部の講義では、全身の機能を理解した上で、様々な口の働きとそのメカニズムを理解できるように力を注いでいます。研究では、口や顔面の生理機能を解明するために、とくに脳の研究に着目し、電気生理学的実験、組織化学的実験、行動学的実験から神経系の役割を明らかにする研究を行っています。具体的には、①口の感覚(味覚や痛み)の研究、②唾液分泌や血流を中心とした自律機能の研究、③食行動、飲水行動、嚥下、嘔吐の研究を中

心に行っています。これらの研究は、歯科の臨床に携わる人達とも共同で進めています。単に口の機能を探究するだけでなく、健康を保持し、生活の質(QOL: Quality of Life)を増進させることに役立っています。



脳切片からの神経活動の記録



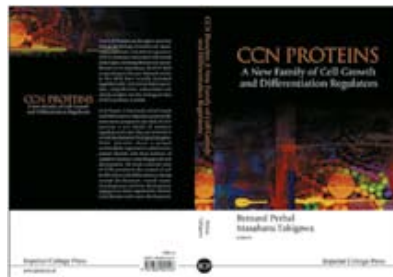
滝川 正春 教授

大阪府立天王寺高等学校
昭和42年卒業

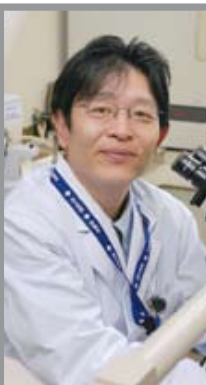
「骨はどのようにしてつくられるか？」をテーマに世界に羽ばたく

生化学とは生命の基礎を化学的に取扱う科学で、細胞の化学的機構を分子のレベルで解明しようとする学問ですが、当研究室では、全身および口腔の生化学の講義、演習および実習を担当しています。研究面では、硬組織(骨・軟骨・歯)の形成・維持・吸収(骨粗鬆症など)機構に関する生化学的・分子細胞生物学的研究、硬組織および血管の再生に関する分子細胞生物学的研究、硬組織および口腔の発癌機構に関する分子細胞生物学的研究、内軟骨性骨形成促進因子であり組織再生因子でもあるCCNタンパク質の生理的意義や病気の関わりに関する研究を行っています。なかでも軟骨研究とCCNタンパク質の研究は、再生医療と密接に関連することもあって、特に力を入れており、世界の十

数カ国の大学・研究所と協同研究を行っています。教員、院生らがそれらの協同研究先に留学し、多くの成果を挙げています。また、研究室配属の機会に学部学生のときに英語論文を筆頭で書いた学生が出ています。最先端の研究を通じて世界に羽ばたきたい人にとって当研究室は絶好の学舎です。



世界で最初のCCNタンパク質の本。
パリ大学 B.Perbal 教授と共に2005年に出版した。



長塚 仁 教授

開成学園高等学校
昭和56年卒業

細胞・組織、遺伝子からのアプローチ 病態メカニズムの解明を目指す

病理学とは病気の本態(原因・成り立ち・経過・転帰)について探究する学問です。講義では身体に生じる様々な病的な変化や疾患について、口腔領域はもちろん全身疾患に関しても学んでいきます。実習では顕微鏡を用い実際の病変の標本を観察することにより、細胞・組織の変化を視覚的にとらえ理解してもらう事を目標としています。また、e-learningも積極的に取り入れています。研究面においては、口腔腫瘍や組織再生についての研究を行っています。口腔腫瘍の研究では、腫瘍を制御する事を目標として、遺伝子レベルでの病態メカニズムの解明に取り組んでいます。組織再生

研究では、歯が喪失した部位に義歯やインプラントなどの人工物ではなく、新たな歯を再生させたり、新規歯科材料の開発を通じ健康に寄与することを目標としています。本分野はアジアやヨーロッパから派遣された多数の外国人留学生および研究者が活躍している国際色豊かな教室です。



口腔微生物学



大原 直也 教授

大阪府立市岡高等学校
昭和 58 年卒業

目に見えないミクロの生命体のコントロールを目指して

私たちの分野では微生物学、免疫学、感染症学の講義・実習を担当しています。

我々のからだの表面には多くの細菌を始めとする微生物が常に存在しています。口腔内にも多くの微生物が常在しており、その中の一部の細菌がう蝕や歯周病などを引き起こします。また、口腔は外の環境に常に触れていることから、普段は我々の体には存在しない、病原性を持った微生物の侵入を受ける危険に常時さらされており、種々の感染症が引き起こされます。微生物の侵入に備え、我々のからだには様々な防御機構が備わっています。

講義・実習においては、う蝕や歯周病を始めとする口腔顎顔面領域の感染症に重点を置くことはもちろんですが、全身の感染症についても十分に理

解することを目指します。研究面では歯周病菌の病原性に関する研究や細菌の感染が骨組織を破壊するメカニズムを中心に研究を進めています。

我々の分野では直接患者さんを治療することはありません。しかし、我々の研究によって抗生物質やワクチンの開発、診断法や治療法の確立ができれば、大勢の人々を感染症から救うことができます。このことは大きな喜びであり、この目標を目指して研究を続けています。



歯科薬理学



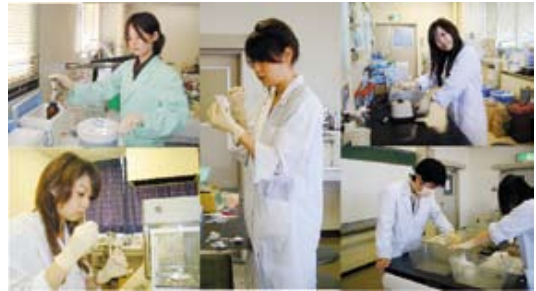
北山 滋雄 教授

香川県立丸亀高等学校
昭和 46 年卒業

薬の働きを科学し、 歯科での新しい薬物療法を考える

薬理学とは、生体に対するくすり(薬物)の作用とその臨床応用についての学問であると同時に、薬物をツールとして生体機能の未知のメカニズムを探究し、その成果をもとに新しい薬物の開発(創薬)を行う学問です。将来、歯科医師として活躍するために必要な薬物療法の基礎知識だけでなく、疾病に対しどのような薬物を如何に用いるかを自ら判断できる能力の獲得を基本に教育にあたっています。また、将来研究者をめざす人たちのために、最新の薬物の知識と、それを開発するために必要な方法論についても講義しています。当分野では、口腔機能を調節する神経系の働きに焦点を当て、

その調節機構の一つである神経伝達物質トランスポーターの生理的役割と疾病との関係について研究しています。このトランスポーターをターゲットとする薬物は、慢性疼痛など口腔領域の疾患に対する新しい薬物療法の開発をもたらすことが期待されます。



生体材料学



鈴木 一臣 教授

東海大学附属第一高等学校
昭和 39 年卒業

歯科医療の未来をテーマに、 先端生体材料開発を目指す

生体材料学分野では、歯科医療に用いられる材料や機器の講義・実習を担当しています。歯は骨と異なり、虫歯やケガで生じた欠損は自然には治りません。無くなった歯やその周囲組織を補うための人工材料がどのように機能するかによって歯科治療の成否は大きく左右されます。当分野では、生体に安全で、かつ、口腔内で優れた機能を発揮する歯科材料の開発を目指し、歯の接着材料、人工歯根、骨補填材や環境ホルモンを含有しない入れ歯材料の開発を行っています。また、この他に歯科用機器としてレーザーに関する研究も行っています。今やレーザーは歯科医療になくてはならないものであり、外科的処置、虫歯の除去から痛みの緩和まで幅広く用いられています。レーザーをより効果的に

かつ安全に使うために、新しい歯科用レーザーの開発やレーザー治療に最適な歯科材料の開発に取り組んでいます。また、これらの研究には、生体と材料との相互作用をナノレベルで解析する分析技術が欠かせません。当分野ではナノレベルの最先端分析技術を駆使して、生体材料の開発研究を進めています。





吉山 昌宏 教授

大阪府立茨木高等学校
昭和51年卒業

接着、審美、再生歯学の 三位一体による歯科治療を目指す

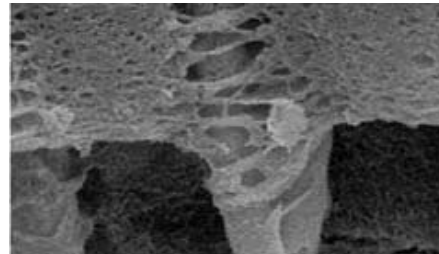
当教室は、岡山大学歯学部で、歯科保存修復学の教育、臨床、研究を担当している歯科保存修復学分野です。

教育は、歯学部学生に歯科保存修復学の講義と、最新のシミュレーションシステムを使用した実習を行い、卒業直前の学生および卒業後の新人ドクターに対しては、臨床実習（実際の患者様を診る実習）を担当しています。

臨床では、これらの研究成果を取り入れた審美性修復材料によるう蝕治療や歯周治療などを大学病院で行っており、本教室の名前どおり歯の保存に主眼を置いた治療を行っています。

研究としては、歯の主要な組織である象牙質を再生させる治療法を開発するために、生物学および

材料学的アプローチで取り組んでいます。また、歯に接着する審美性修復材料を用いた新しいう蝕治療法の開発や、奥歯にも使用できる審美性歯科材料による修復法の研究にも力を入れています。さらに、歯の主要な病気であるう蝕象牙質の細菌学的、分子生物学的な研究にも鋭意取り組んでいます。



象牙質と材料との接着界面の電子顕微鏡像



高柴 正浩 教授

広島県立
福山誠之館高等学校
昭和55年卒業

歯の延命だけですか・・・？ 全身の健康へ貢献する歯周病態学

歯周病態学は、全身のなかでも常在細菌の多い口の中で細菌感染とそれによって引き起こされる慢性炎症が元で起こる歯の周り（歯周）の病気を対象とした分野です。歯と歯肉の境目や歯の中と骨との境目から起こる病気（歯周病と歯内疾患）は、全身へ種々の影響を与えることが分かってきました。この分野では、細菌学、免疫学、細胞生物学、そして分子生物学などの基礎に則って、病気の本態と治療の機序を研究して、学部と大学院の教育と病院の歯周科における臨床に役立っています。最近では、高齢者、臓器移植患者、そして癌患者の増加に伴い、口の中の細菌感染と炎症が全身へ及ぼす影響を無視できません。このような患者

の医科的な治療に際して、口の中の感染と炎症の制御も行っています。3年次の教室配属や5・6年次の臨床実習を通して、研究の一端とそれを活用した臨床を学びます。なお、卒業後の研修医期間には歯周科の選択がありますし、その後に大学院に進学した際にも、細菌感染の抑制、生体の免疫応答や組織再生の制御によって、歯周や歯髄（歯の神経）組織を守ることを学びます。



窪木 拓男 教授

岡山県立井原高等学校
昭和55年卒業

技術偏重の歯科補綴学から 分子生物学を駆使する Molecular Prosthodonticsの時代へ

当教室は、岡山大学歯学部で、歯科補綴学における歯冠補綴・架工義歯学（クラウン・ブリッジ学）、インプラント義歯学の講義と実習を担当している教室です。

歯科補綴学は臨床歯学の一学科であり、歯、歯列、顎、口腔の硬組織・軟組織の欠損もしくは異常によって障害・喪失した機能と形態を各種義歯により回復するとともに、残存する諸組織の保全と健康の維持を目的とした学問です。この目的を達成するために、骨や軟骨、歯、象牙質の再生や顎関節症・口腔顔面慢性疼痛、高度インプラント治療、接着技法の歯科補綴臨床への応用、金属アレルギー、睡眠時無呼吸症候群などを研究臨床対象としています。そして、これらの分野における臨床上的問題点を解決するために、分子生物学的手法

やナノテクノロジーなどを駆使し、精力的に研究を行っています。また、そこから得られた新知見を、研究のための研究でなく、トランスレーショナルリサーチに持ち込むことによって、失われた組織や機能の再創造を目指す研究・臨床を行っています。

興味がある方はホームページ（<http://www.dent.okayama-u.ac.jp/1hotetu/>）を御覧になって下さい。



咬合・有床義歯補綴学



皆木 省吾 教授

岡山県立岡山操山高等学校
昭和 51 年卒業

【楽しくおいしく食べる】をストラテジーに超高齢社会を迎え撃つ

私たちの教室は、岡山大学歯学部で有床義歯の講義と実習を担当している咬合・有床義歯補綴学分野です。歯学部の学生教育には総義歯（総入れ歯）と局部床義歯（部分入れ歯）を中心にインプラント、顎顔面補綴や顎関節症なども教えています。研究では、バイオエンジニアリング、口腔の軟組織や骨組織に関する生化学的研究、摂食・嚥下障害や構音障害の治療に関する研究、インプラント周囲組織についての研究、顎関節症やブラキシズムの研究、補綴治療を受けた患者のストレスの研究等その他多くの領域での研究を行っています。臨床ではこの様な研究成果を応用し、通常の入歯からインプラント、さらには摂食・嚥下障害、構音障害、顎顔面補綴治療など多面的な治療を実践していま

す。【楽しくおいしく食べる】の実現を目指して教育、研究、臨床を行っています。ホームページ (http://www.dent.okayama-u.ac.jp/2hotetu/index_sc_j.html) を見て興味湧いてきた方、質問ある方からのメールをお待ちしています。



歯科矯正学



山城 隆 教授

大阪府立北野高等学校
昭和 59 年卒業

審美、機能の両面からみた最新の矯正治療を学ぼう

審美、機能の改善を行い、患者さんへの心理的満足を得られること。そのために、皆さんには、講義、実習を通して、歯科矯正学を学んでいただきます。まず、成長・発育を理解し、さらに矯正歯科に必要な、臨床に関する基礎知識を学びます。臨床実習に入るとかみ合わせなどを気にされている患者さんに接しながら、講義、実習で学んだ内容をさらに深めていきます。診療室では顎顔面に症状の現れる先天疾患の患者さん、手術が必要な顎変形症の患者さんの矯正治療にチーム医療を取り入れています。そして、見た目の改善だけでなく、機能的な面もとらえながら治療しています。また、矯正用インプラントを用いた治療や骨延長術などの最新の治療、さらにおもてから見えない矯正装置などを

用い、治療中の見た目を気にされる患者様のニーズに応える治療も行っています。研究に関しては骨組織リモデリング機序の解明、痛みの制御、軟骨の再生、歯根膜細胞の機能に関する研究などを行っています。また、臨床的分野では患者さんの顎運動に関した研究をしています。臨床、研究ともに幅広く力を入れています。



顎口腔再建外科学



飯田 征二 教授

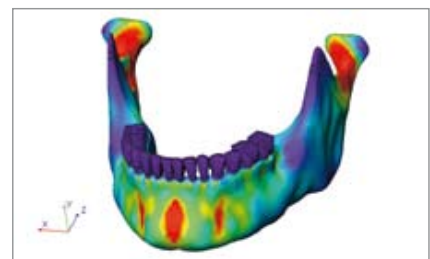
奈良県立奈良高等学校
昭和 54 年卒業

Oral Science の探究とそれに基づいた口腔外科医療の実践

当教室は、昭和 24 年に医学部歯科学講座として創設され、歯学部開設の母体となった教室であり、現在は診療科名を口腔外科（再建系）として多くの口腔疾患の治療を行っています。

口（口腔）は栄養をとり入れ、言葉をしゃべったりといった生活を営んでいく上で不可欠な様々な役割を担っている重要な臓器です。当教室では口腔やその周りで生じる様々な疾患の治療と、病気によってそこなわれた口の機能や形態の回復（再建）に対する外科的な治療を行っています。対象となる病気は非常に多く、あごの骨折などの外傷や親知らずなどでの炎症、舌やあごにできる腫瘍などの疾患のほか、失った歯に対するインプラント治療、あごの発育異常、生まれながらの唇や上あごの病

気である口唇口蓋裂などの専門的な技術が必要な疾患もあります。講義や研究についてもこのような疾患を対象として行っていますが、あくまでも、歯科学が自然科学（Science）の一分野を担っていることを忘れずに“口腔”に関わる“Science”を常に探求し、また、Science に基づいた医療を実践して、幅広く活動できる歯科医師の育成に力をそそいでいます。



コンピューター上での骨折のシミュレーション



佐々木 朗 教授

岡山県立
岡山大安寺高等学校
昭和 50 年卒業

Save your Life, Keep your Smile をめざした口腔外科医療

口腔顎顔面外科学分野は口腔外科（病態系）という診療科を担当する臨床系分野です。

口腔外科では、抜歯、顎（あご）の骨折や変形、歯が原因で起こる炎症、口腔粘膜疾患、顎や粘膜にできる腫瘍、顎関節の病気、人工歯根の埋め込みなど口腔領域に発生する多くの病気の診断と治療を専門にしています。これらの治療は外来のみならず入院の上、全身麻酔下での手術も行っています。学生教育では口腔外科学のうち、口腔疾患の診断・検査、手術学総論・各論、口腔腫瘍学、口腔粘膜疾患、口腔領域の神経疾患や血液疾患、有病者の歯科治療、基本手技である抜歯学についての講義を担当しています。5年次生の後半から始まる臨床実習では、抜歯などの基本手技の修得、外科治療時の全身管理

などを指導教員についてもらい学んでいきます。また病棟回診や症例検討、手術室での手術見学もカリキュラムにはいっています。研究では、口腔癌の浸潤・転移や癌により誘発される骨破壊病変の研究、制癌剤耐性機構の研究、顎変形症の術前術後の評価に関する研究、骨・軟骨代謝に関する研究を中心に行っています。



浅海 淳一 教授

愛媛県立今治西高等学校
昭和 52 年卒業

画像診断・口腔癌保存治療をテーマに 歯科放射線の分野を切り開く

当教室は、岡山大学歯学部で歯科放射線学の講義と実習を担当している歯科放射線学分野です。診療を行うためにはまず診断が必要です。診断の中で画像診断は非常に大きな比重を占めます。デンタルにはじまって、パノラマ、CT、超音波、MRI、歯科用コーンビームCTなど、画像診断のモダリティの種類の豊富さと質の向上は目覚ましいものがあります。その診断機器について理解し、活用できるよう指導します。

当教室は、画像による診断ばかりでなく、口腔診断の立場で総合的に診断を行うことを心がけて診療を行っています。また、口腔癌の治療においては、審美性と機能性の保全が重要です。口腔癌の小線源放射線治療（特にモールドを使用した非

観血的な放射線治療）も行い、口腔癌の保存的治療を目指しています。研究では、造影剤の病変内への取り込みによって病変内の経時的血行状態を把握する事ができるダイナミックMRIによって、口腔病変の非観血的な質的診断能の向上を目指しています。また、小型MRIの開発も行っています。



森田 学 教授

広島大学附属福山高等学校
昭和 51 年卒業

知識を知恵に転化し 応用する現場学

人間を取り巻く地球環境問題および室内環境にはじまり、保健統計学、歯科疾患の病因論や予防方法論などを講義します。

臨床では主にブラッシング指導をベースとした歯周疾患の治療に加え、虫歯の予防を含む口腔の健康増進を分担しています。これら以外に口臭、口腔乾燥、味覚異常などの障害に対応します。患者様と向き合いながら、治癒、軽症化をはかり、疾患の再発防止、口腔の健康増進を図ります。よりよい医療を患者様に提供するために、医療統計学を基盤とした確率に基づく、勘だけに頼らないEvidence based dentistryをめざしています。しかし、最も大切なのは患者様の目線にたって診療できる豊かな人間の資質です。

研究は常に現場を意識し、実験室では歯肉病変とメカニカル刺激、全身疾患と歯周疾患、唾液成分などのミクロな研究、歯周疾患、口臭、口腔乾燥などの臨床疫学研究、また地域社会に向いてのブラッシング指導などによる公衆衛生学的介入研究も行っています。



行動小児歯科学



松村 誠士 准教授

香川県立高松高等学校
昭和43年卒業白い健康な歯は小児歯科から
笑う、食べる、話すことは楽しい

小児歯科では子供の心身の発達、虫歯の発症の原因・虫歯の予防方法や正しい咬合への導入・年齢に応じた小児への歯科医の接し方や小児特有の歯科疾患を学びます。

小児歯科の臨床の最終目標は虫歯や他の口腔内疾患の予防と拡大の防止です。また、歯科医師と患児や保護者の間に強い信頼関係を築き快適で高度な歯科処置を施すことです。

その為に虫歯予防を細菌学的ならびに虫歯菌の感染経路の面から研究しています。またコミュニケーションのとり方や小児の行動ならびにどのような要素がポジティブに又はネガティブに行動の変容に関わるのかを科学的に研究しています。

歯科医師1年生は研修医として各指導医が班ごと

ないしはマンツーマンで臨床を学びます。また小児歯科では行政で行われている1歳6か月、3才児健診などに参加して公衆衛生活動を学ぶ機会を設けています。また医学部の小児科、小児神経科や耳鼻科の要請を受けて病棟に往診に出向いたり、口腔内を見て全身疾患が疑われる児は適切な科への紹介もを行います。研修医が終わると指導医と共に実際に担当医として患児ならびに保護者の方と強い信頼関係を築きながら共に臨床医に携わっていきます。



歯科麻酔・特別支援歯学



宮脇 卓也 教授

兵庫県立小野高等学校
昭和55年卒業安全、安心、快適な歯科治療と
「障がい」に優しい口腔健康支援

高齢化社会が進行し、歯科治療の患者様はほとんど高齢化しています。高齢化とともに、高血圧、心疾患、糖尿病などの複数の病気をを持った患者様が増えてきました。このような患者様に安全、安心、快適な歯科治療を科学的に提供すること、さらに、発達期の「障がい」、高齢期の「障がい」あるいは疾患による「障がい」を持った人たちの口腔の健康維持を支援し、それらの「障がい」を持った人たちが地域で十分な歯科治療を受けることができる、成熟した医療システムの構築を目指して研究しています。歯科治療時の疼痛・ストレス制御を専門とする歯科麻酔、救急救命処置に関わる歯科医療安全管理、さらに「障がい」を持った人たちの口腔健康維持を専門とする障害者歯科、摂食・嚥下

リハビリテーションを包含し、21世紀の多様な社会構造に対応できる臨床歯学研究分野です。これらの専門知識、技能を習得することで、地域社会で大いに貢献できる、ワンランクアップの歯科医師の育成に努めています。さらに、大学院医歯薬学総合研究科において、当分野の研究者および専門医の育成も重視しています。



診療カンファレンスの様子

総合歯科学



鳥井 康弘 教授

大阪府立高津高等学校
昭和50年卒業提供する歯科医療の質の向上を
常に目指す歯科医師の養成

岡山大学歯学部では学生に優れた歯科医師となってもらうために多くの分野から専門的な教育が行われています。当教室は、その中でも歯科医療にたずさわる者として将来にわたって総合的に知識、技能、態度を学んでいただくことを期待して歯科医療の基本についての講義を歯学部の学生に行っています。また附属病院では、歯科医師法によって定められた臨床研修における歯科医師免許取得直後の歯科医師に対しての臨床教育を担当し、医療人としての良識と基本的な診療技能をもつとともに、生涯にわたって自ら学び医療の知識と技術を向上させていく歯科医師を養成しています。

研究では、歯科医療の発展と質の向上を目指して生体であるヒトの歯の再建に役立つ機能性修

復材料の開発研究を行っています。また、歯学臨床教育を主に担当する当教室では、学習者の日々の振り返りや気づきを惹起して自己成長を促進し、医療人としての行動やプロフェッショナリズムを向上させるための新しい臨床教育法の開発と教育現場への応用も行っています。これらの教育、臨床、研究活動によって、自ら提供する歯科医療の質の向上を常に目指す姿勢を学んでもらい、明日をになう歯科医師を養成したいと考えています。



病院紹介



最先端の医療を提供し、地域及び国際福祉に貢献する

岡山大学病院（歯科）



歯科系副院長
佐々木 朗 教授

岡山大学病院（歯科）では、「高度の医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てる」という理念のもと、下記に掲げる診療科で日々の臨床活動を行っています。そして地域にあつては病診連携など高次医療機関として地域医療に深く関わっています。また、皆さんが歯科医師として修得すべき技能・資質を育む教育病院としての役割、次世代の先端的な歯科医療の研究・開発を担う役割も果たしています。

5年次から始まる臨床実習は、初めてのことが多く大変ですが、多くの患者の方々と向き合うことで医療人としての責任、やり甲斐を実感できると思います。本病院は、医学部附属病院と歯学部附属病院が統合した国立大学病院であることから、その特徴を生かした医科歯科連携体制も充実しつつあります。そのため歯科にとどまらず多職種の方々と接する機会も多く、広い視野を持った歯科医師の育成には最高の環境が提供できていると思います。優秀な皆さんがこの病院で学び、将来の日本の歯科医療を牽引する素晴らしい医療人として育ってくれることを楽しみにしています。

診療科案内

総合診断室（予診室）

総合歯科

総合歯科

口腔治療・咬合再建科

むし歯科

歯周科

補綴科（クラウン・ブリッジ）

補綴科（咬合・義歯）

口腔病態外科

口腔外科（再建系）

口腔外科（病態系）

歯科放射線・口腔診断科

歯科麻酔科

総合口腔保健科

矯正歯科

予防歯科

小児歯科

特殊歯科総合治療部

第一総合診療室

{心身障害者（児）歯科治療室、摂食・嚥下リハビリテーション室}

第二総合診療室（感染症患者歯科治療室）

第三総合診療室（全身疾患有病者歯科治療室）

専門外来

口腔インプラント外来

顎関節症・口腔顔面痛み外来

審美歯科外来

特殊義歯外来

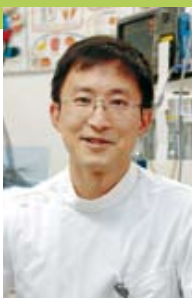
スポーツ歯科外来

顎顔面補綴外来

口かわき・味覚外来

歯科金属アレルギー外来

口臭外来



江草 正彦 特殊歯科総合治療部 准教授
(岡山県立岡山大安寺高等学校 昭和56年卒業)

特殊歯科総合治療部の紹介

第一総合診療室は障害を有する患者様の歯科診療や、摂食・嚥下障害のリハビリを行う所です。年齢は乳児から高齢者まで様々で、口腔の問題をトータルに支援しています。岡山県の高次医療機関では唯一で、近県からも多くの患者様が来院されています。また、障害を有する方や全身管理の必要な患者様に入院下での集中歯科治療も行っており、それぞれのニーズにあった対応を心がけています。





岡山大学



交通案内

岡山までJR利用

- ・岡山駅東口から「12」・「22」・「52」系統の岡電バスで「大学病院前」下車。
- ・岡山駅前の路面電車乗場から「清輝橋」行に乗車、終点清輝橋下車、徒歩約8分。
- ・岡山駅前からタクシー 7～10分。

岡山まで航空機利用

- ・岡山空港から「岡山市内方面」行バスに乗車、「岡山駅」で下車、岡山駅からは上記交通機関で。

岡山まで山陽自動車道利用

- ・岡山ICで降り岡山市内方面へ、または、早島ICを降り岡山市内方面へ。



岡山大学歯学部

〒700-8525 岡山市北区鹿田町 2-5-1

岡山大学歯学部教務学生係

TEL:086-235-6627 FAX:086-235-7564

URL:<http://www.okayama-u.ac.jp/user/dent/>

岡山大学歯学部広報委員会編集